I

案内標識等統一化にかかる基本的な考え方

1

計画策定の背景

区内には、観光案内板、住居表示街区案内板、旧町名案内板、歩行者案内標識など、 区が設置する18種類、約3,400基の案内標識等があります。これらは、区民や来訪者などへの情報提供や誘導など、それぞれの目的を有しているだけでなく、その地域を外部へひらく気持ちを表し、地域のイメージを印象づける重要なものです。

現在、区内の案内標識等のデザインは、各標識等により異なり、多様なものとなっています。同じ地点に、所管の違う数種類の案内標識等が立ち並んでいることもあります。 そのため、デザインが統一性に欠ける、景観を損なっているという声がありました。

一方、区には、「まちあるき」を楽しむ大勢の観光客の方が訪れます。このことから、 平成21年に策定した「観光ビジョン」では、取り組みの柱の1つに「まちあるきのための環境整備」を掲げ、「区内の回遊性を向上させる誘導システムの整備」に取り組むこととしました。

これらを受けて、区では、区内の案内標識等の実態を把握した上で、既存の標識等の集約手法や、デザインの統一化などに係る「文京区案内標識等統一化計画」を策定することにしました。

本計画の策定は、区内にある大学の中でパブリックサインの専門家を擁する筑波大学に、調査・研究を委託するとともに、庁内に、関係各部署と筑波大学をメンバーとする検討会を設けて行いました。